

平成30年度入社式について

平成30年4月2日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、以下の通り「平成30年度入社式」を行いましたのでお知らせいたします。

鉄道総研は、平成30年4月2日（月）10時から、国立研究所において、「平成30年度入社式」を行いました。

入社式では、経営幹部立ち会いのもと、鉄道総研理事長 熊谷則道から新入職員 20名一人一人に辞令が手渡されました。引き続き、理事長から新入職員へ訓示が行われ、それを受け、新入職員を代表して相澤宏行（24）から答辞が述べられました。



写真 理事長から辞令を受け取る新入職員

理事長訓示要旨

本日、鉄道総研に入社されたこと、おめでとうございます。

20名の皆さんを迎えられることを、私を始め、鉄道総研一同、大変喜んでおります。同時に、皆さんが社会人として踏み出す最初の日となりました。社会に船出する緊張感と新しい環境への意気込みを皆さんの表情から感じることができます。

日本の経済状況は順調のように見えます。大手企業の賃金のアップが表明され、新卒の就職の状況も好調のようです。鉄道事業では、ご利用いただくお客様の数や貨物の取扱量が対前年比で増えています。一方、地域鉄道路線の存続について鉄道事業者と自治体の間で検討が継続されています。さらに、豪雨や地震による鉄道設備の甚大な被害を受けた事業者では、復旧と運転再開に向けへ不断の努力が継続されています。このように鉄道に関して常に変動しています。振り返ると、JR会社が誕生した時から今日までの31年間は、鉄道の研究開発を担う私たちは技術を鉄道事業にどのように役立たせるのか、そのためにどのような技術開発を行うべきか、を考え、方向を決め、計画を立て行動してきた期間でもありました。30年は企業の1つの世代とみる場合があります。皆さんはJRの第二世代のスタートの時期に入社されたことになり、新たな30年を創っていただくことを期待しています。

鉄道総研は4年前の平成26年に研究開発の理念として「革新的な技術を創出し、鉄道の発展と豊かな社会の実現に貢献いたします」とのビジョンを設定しました。そして私たちが最も大事にすべきことは社会からの「信頼」をこれからも持続して得ること、と位置付けました。

この信頼を得るために、皆さんの立場で研究開発活動に取り組む姿勢について二点お話しします。



写真 新入職員に訓辞を述べる熊谷理事長

第一には、物事が起きていることを「先入観なく観察する目と心」を持っていただきたいことです。

鉄道の技術的な問題は営業列車が日々走行する鉄道の現場で見つかることが多いのです。これらの現場で起きていく問題が、研究開発の課題そのものであり、このためには現場で起きていることを良く観察する必要があります。先入観なく物事の本質をとらえることに集中してほしいのです。技術開発の途中に、困難に直面することが多くありますが、それらを乗り越えるのは、物事の本質を見抜く力や探究する強い意志であると思います。

第二には、鉄道のプロとして「チャレンジ精神」を持っていただきたいことです。

JR会社を始めとする鉄道事業者を通して、お客様に役立つ成果を提供することが当研究所の使命です。安全の向上など、高い品質の研究開発成果を、鉄道総研から社会に提供することです。観察して得た課題に、プロの鉄道人として、ひるむことなく解決に向けチャレンジして下さい。

本日から一人一人が社会に貢献するのだ、ということ肝に銘じ、まずは鉄道のことをよく学んでいただきたいと思います。社会では人工知能、ビッグデータ解析、高度シミュレーションなどの技術展開が急速に行われています。この大きな「デジタル化」の流れを鉄道技術に注入する必要があります。これが鉄道の技術革新をもたらすことになるでしょう。

私たちとともに、皆さんのフレッシュな感性とバイタリティに加え、「プロとしての情熱」を持って健康に留意され、鉄道の価値を高めることにまい進されることを期待しています。

新入職員代表者答辞要旨

本日は私どものため、このように立派な入社式を開いていただき誠にありがとうございます。

ただいま理事長より、心温まる歓迎と励ましのお言葉を頂き、感銘を受けると共に身の引き締まる思いで一杯でございます。私どもは、本日より皆様と共に公益財団法人鉄道総合技術研究所の一員として働くことをまことに光栄に存じております。本日賜りましたお言葉を胸に刻み、技術革新に挑戦し、今後の鉄道の発展に貢献したいと考えております。しかし、私どもは若輩ゆえ至らぬ点多々あるかと思えます。

鉄道総研の名に恥じぬよう精一杯努力し、社会人として立派に前進して参りたいと考えております。どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。以上、簡単ではございますが、答辞とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



写真 答辞を述べる新入職員